

W^{or} NewsLetter 45

1977年11月4日

大阪市あべの区旭町2-12-2 泉原文化 戦争抵抗者インタナショナル日本部

11月、自分の生き方を愛える二つの集り案内

④ 4日よる6:30 ポスター等のパロディ化・共同製作を試みる会。

⑤ 18日よる6:30 へ反原発は私たちの生きかたを、世界を愛える
市川定夫氏(京大農学部助手)と隣つきあわせて、徹底的に学ぶ会

⑥ ④の会場はいずれも 神戸エンカウンスター・スクール(国鉄六甲道、次側下車
市バス通り二つ目辻を右折、二つ目辻をそのまゝ、直進二つ目辻をすこし手前、オートビ
ル4階。駅より徒歩45分。主催へ非暴力直接行動(略称ND)の会。

⑦ 23日ひる1:00 良心的軍事費拒否のすすめ、講演と懇談の会

大島正氏(同志社大教授・サライマン訴訟原告)の講演。大野道夫氏(良心的軍事
費拒否の会代表)を囲んで具体的やり方についての懇談。会場：大阪、中之島中
央公会堂、カニ会議室。地下鉄御堂筋線淀屋橋下車。主催 良心的軍事費拒否の会。
いまウリはこれら三つの集りに、既知未知のウリのなかまとその友人などが、万障を
排して参加されることを期待しています。また主催者と一体になつて、一般からの新し
い参加を一人でも得たいと、PR中です。あなたもできることでの助力を。

事務局から

外出すると交通費待後など一人当たり千円位いるので、できる事務局にくる人をま
つというのが、やむをえない方針でしたが、10月から方針転換、ウリ事務局の三人は積極的に
かけまわっています。あなたもひとつ、11月はこれとおもう集会や行動など、この一ヶ月
間は、できる限りに顔出ししてみようということにしませんか。へもし地味や事情でダメ
な方は、例えば講演のテープをとりよせてきく。それに關する資料をよむ。行動団体グル

。パンフ「反原爆運動における直接行動の展開」をひろげてください。一冊千五百円、四冊なら五百円。

「ア」へ手紙をかく、などのことがあるでしょう。そして、どうか、ぼくらの4日・18日・23日をお忘れなく。

さて、へ自分の生き方を愛する、と大げさな見出しをつけた。果してへ愛する、かは、半分は見出しをかいた者の責任。半分はあなた自身の責任です。この④⑤⑥を、どのように非暴力直接行動としてうけるのか……

④は、私たちをとりまくカメラスコミの情報に対するへ反広告の斗争、彼らのポスター等を逆利用してつくりかえる「パロディ化」してこちらの宣伝にするための技術トレーニングを、共同制作としてやろうというわけです。当夜は、街頭にある自衛隊や警官募集のポスター、その他何でも商業用ポスターでも二三枚、はがしてもつてきて下さい。もしあればクレパス・ポスターカラー・色マジックとハサミなども。

これで出来上がった作品は、反戦愛大市その他で展示につかいます。みんなてがやがやないながらつくと、思いもかけぬ傑作がデキマスヨ。それをつくり出す過程で、まず自分をどのように説得的に納得させているか、いろんな問題のその内容がはつきりしてくるでしょう。いかにひとよがりの思いあがりて、他人に訴えようとしていたかも。

⑤の市川さんの話は、何と書いてもよくには新しい衝撃だ。似島のピースキャンピングでラムラサキ

はどんな微量でも、許容量などというものはない。というそれは、さらにヒロシマナガサキの被爆者にとつて許容量とは一体、どんな意味をもつかを考へさせるものだった。26日大阪の集会で「原子力は軍事用と商業用とだけで、平和利用はありえない。日本では商業用を平和利用とことばをすりかえ、企業や政府は国民をだましていう」という一点だけでも、ぼく自身がついうっかり平和利用などと云つても……と、その言葉を使っているうかつさをガアンとうつものだった。それに市川さんの、まさに東奔西走、どこへも気軽るに今日はこの、明日はそこ、そして他国まで核燃料再処理工場裁判参入として陳述にとぶ、という行動力にもびつくりする。ぼくらのムリなお願ひにも日時をくつて、この日ならとOKのような気構えと行動をも望むねばーとおもう。エスカンターの部屋にびつしりつまつて、目の前の市川さんの体全体から出てくる話をきこう。こんな機会は何もない。そして一度それをきくかぎり、あなたの生き方は、必ずかわる筈だ。(くりかえして言う。もしあなたがその話を非暴力直接行動と結びつけて意識するならば) ⑥については、まだ別紙で。